

競技規則の要点

1. 競技場について

- ① 塁間は、16mで実施する。
- ② コーチャーズサークルは、設けない。(コーチャーは立てない)

2. 用具について

- ① 試合に使用する用具(ボール・バット・バッティンググローブ)は主催者で用意する。(グローブは、各自で用意。金属スパイクは禁止。)
- ② ボールは、ケンコーティールボール11インチゴム製を使用する。
- ③ バットは、SGマーク(製品安全協会認定)製品を使用する。サイズはS・M(小学生用)の二種類とする。

3. チーム編成とプレイヤー

- ① プレイヤーは、10人とする。エキストラヒッター(打つだけの選手)は採用しない。
- ② 基本的守備位置については、競技規則で確認する。
- ③ メンバー表の交換は、特に行わない。
- ④ 背番号を必ずつけて、メンバーが確認できるようにする。

4. 試合について

- ① トーナメント方式
全員攻撃制で実施。予選リーグ・トーナメントは、1回戦は、3回(イニング)実施する。(ただし、30分を過ぎた時点で新しいイニングには入らない。)
2回戦以降は、2回(イニング)実施する。
試合の最終回が終了した時点で同点の場合は、タイブレーク(満塁：走者8、9、10番打者、打者3人：1～3番打者)を行う。タイブレークで勝敗が決しないとき、代表1名による抽選を実施し、順位を決定する。
- ② リーグ戦方式
勝ち点制を採用する。(勝ち：2点、引き分け：1点 負け：0点)
勝ち点が並んだときは、代表1名による抽選を実施し、順位を決定する。
- ③ 決勝トーナメントにワイルドカードを採用する。予選リーグ・トーナメント(7ブロック)2位の1チームが、抽選により進出できる。
- ④ 全員攻撃制の注意点

- ・ 両チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代する。3回又は2回(イニング)を終えたときに、得点の多いチームが勝者となる。
- ・ 残塁の走者は次の回に受け継ぐ。(最終回を除く。)
- ・ 1回と2回の最終バッターのとき、フライを打った時やフォースプレーが行われた場合、塁上のランナーの進塁は認めない。

- ⑤ 次の試合のチームは、前の試合が終了するまでに移動や準備を完了しておく。
(速やかに試合が始められるよう協力をお願いします。)
- ⑥ 試合をスピーディーに進めるため、フィールディングとボール回しは禁止する。

5. 打者(バッター)について

- ① 「プレイ」の宣告後、速やかにバッティングを行う。
- ② 打つときに、軸足を2歩以上動いたとき、ストライク。
- ③ ボールに触れずにバッティングティーを打ったとき、ストライク。
- ④ バントは禁止。バントやプッシュバントと球審が判断したとき、ストライク。
※ 故意に、スウィングを遅くしたときもストライク。
- ⑤ 第2ストライク後、打球がファールボールとなったとき、アウト。
- ⑥ バットを放り投げは禁止する。

6. 走者(ランナー)について

- ① 離塁は打者が打撃した後とし、違反した場合はアウト。
- ② 盗塁は禁止。(タッチアップは認められる。)
- ③ スライディングは禁止とし、すべての塁で駆け抜けを認める。ただし、次塁をねらう意思があると判断された場合は、駆け抜けとはみなさない。
- ④ インフィールドフライはなし。

7. ボールデッドについて

- ① プレイが一段落した段階(守備側の内野手がボールを保持し、攻撃側の走者が進塁の意思を見せずに止まったとき)で、ボールデッドの判断をする。

内野の守備は、ダイヤモンドより後方に位置する。安全確保(怪我防止)のため。打撃が行われたと同時に移動可。

- ※ ルールについては、「公認ティーボール規則」に準じて実施します。
ただし、ティーボールの理念から、その状況に応じて特別な配慮をすることもあります。その場合は、審判の指示に従ってください。